

経営比較分析表

静岡県 袋井市

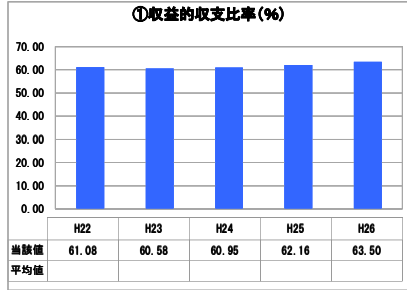
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	37.06	97.26	1,680

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
87,163	108.33	804.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
32,300	6.82	4,736.07

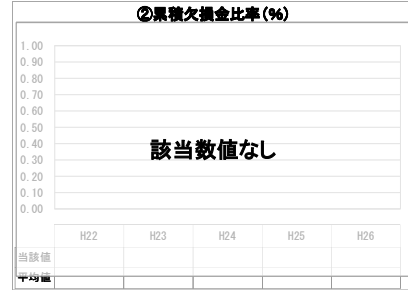
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



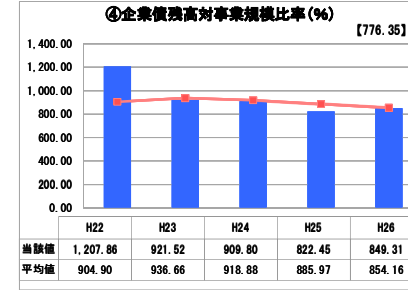
「単年度の収支」



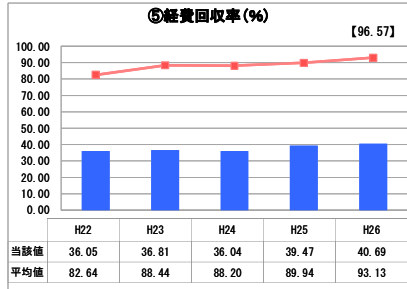
「累積欠損」



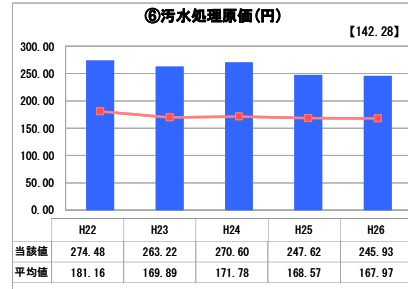
「支払能力」



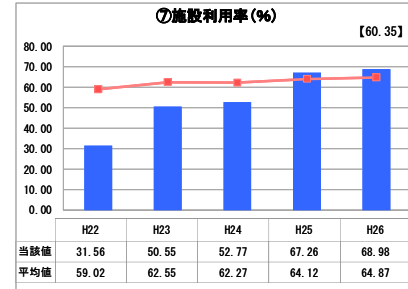
「債務残高」



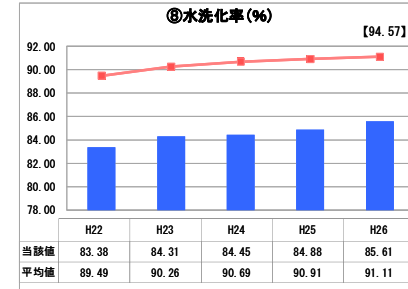
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

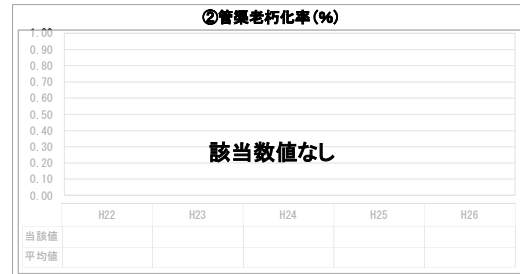


「使用料対象の捕捉」

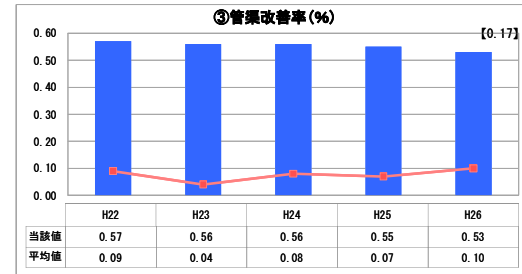
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①については、事業開始後10年間の多額な建設費を地方債で賄ったため、その償還金額が費用全体の4割以上を占める状況となり、収支比率が低い水準となった。しかし、下水道整備の進捗による有収水量の増加により使用料も増加し、収支比率は徐々に改善傾向にある。

④については、H22を境に地方債の借入金が2分の1程度に減少し、借入金額より償還金額が大きく上回ったため、H23以降は類似団体と同水準となった。

⑤については、汚水処理費の財源の6割以上を一般会計からの繰入金で賄っていること、使用料の料金体系を利用者の負担に配慮し低く設定していることから、類似団体と比べても非常に低い水準にある。

⑥については、事業整備率が4割程度で有収水量が少ないこと、建設費用に加え施設設備の維持管理費も必要となることから、原価が高額となっているが、事業の進捗により有収水量が微増しわずかながら改善傾向にある。

⑦については、事業の進捗により処理水量が増え、計画目標である7割に徐々に近づいている。

⑧については、下水道処理区域内で下水道に接続している割合を示している。戸別訪問や工事説明会等接続推進活動の継続により、改善傾向にある。

2. 老朽化の状況について

事業計画に基づき毎年整備を進めている。類似団体と比較すると、良好な改善率を保っている。今後も計画に沿った整備を進めていく。

全体総括

事業整備率が低く、使用料収入で賄うべき汚水処理費(公費負担を除く)を一般会計からの繰入金に頼らざるをえない状況が続いている。事業整備を進め有収水量を増加させるとともに、事業開始時に低く設定した使用料の料金体系を定期的に見直し、事業完了時には経費回収率100%を目指す必要がある。

また、施設設備の効率のかつ効果的な維持管理を行うとともに、中期計画を策定し計画的に更新する必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。